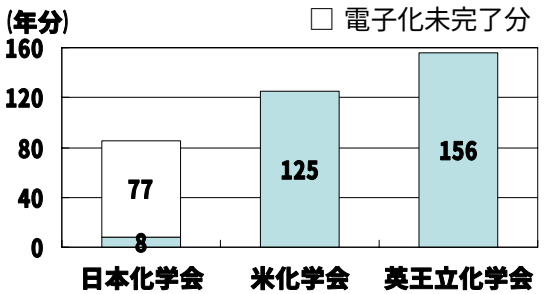
電子情報発信・流通促進 ～学術雑誌の電子アーカイブ化～

我が国の学協会誌の発信力の強化及び重要な知的財産の保存のため、科学技術分野の主要な学協会誌の電子アーカイブ化を実施（平成17年度から開始）。電子アーカイブ対象誌選定委員会に、黒川清前日本学術会議会長が委員長として、日本学術会議第1～3部のメンバーが委員として参画。

http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/

○ 情報発信における問題点

学術誌の電子化が充分ではなく、発信力が弱い



日米欧学術誌の電子化比較
（化学誌の例、2003年調査）

優秀な論文が発信力の強い海外誌へ流出

学術雑誌の電子アーカイブを推進、海外への発信基盤整備が不可欠

○ 学術雑誌の電子アーカイブ化

Journal@rchive

学会

冊子体

電子化データ作成（PDF）

日本の科学技術分野の重要な雑誌

競争的資金による研究成果の発信

①リンク
②検索
③閲覧

電子アーカイブ（創刊号から）

アーカイブの搭載
検索用データの整備
リンクの整備

J-STAGE
科学技術情報発信・流通総合システム

現在
10年前
50年前

J-STAGE（既存部分）
（約360ジャーナル、7年分程度）

アーカイブ作成

創刊号から電子化

5年間で日本の科学技術分野の学術誌500誌を創刊号から利用可能に拡張

○ J-STAGEを利用した海外発信力の強化

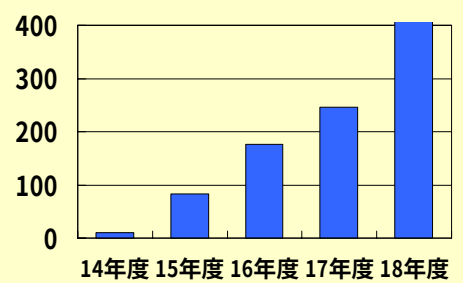
他サイトの電子ジャーナル

リンクの整備

海外レファレンスサイト

crossref
ChemPort CONNECTION
PubMed

JSTリンクセンター



全文リンク

抄録表示

JDream II

電子情報発信･流通促進 ～学術雑誌の電子アーカイブ化～

Journal@rchive Stories から 「数物学会誌」の紹介

Journal@rchive

http://www.journalarchive.jst.go.jp/info/stories/physics01.php

2006/03/27 第1回
数物学会誌と湯川秀樹

湯川秀樹　1907(明治40)-1981(昭和56)
(提供: 独立行政法人理化学研究所)

2007年1月23日は，日本で初めてノーベル賞（物理学賞）をとった湯川秀樹博士の，生誕100周年にあたりますが，この有名な湯川の中間子論の 論文が掲載されたのが『数物学会誌』です。『数物学会誌』とは，1877年に 創立された「東京数学会社」から始まった，数学と物理学を一緒にした学会が 出していた学会誌です。しばしば学会の名前と雑誌の名前が変わって行ったので，まとめて『数物学会誌』と呼んでおきます。湯川の論文は，1919年から『Proceedings of the Physico-Mathematical Society of Japan』という名称になったこの雑誌の，1935年第17巻48-57ページに「On the Interaction of Elementary Particles. I.」(「素粒子の相互作用について I.」)という題名で掲載されています。
[続きはホームページで]

2006/05/24 第5回
数物学会誌と日本の数学･物理学の発展

朝永振一郎　1906(明治39)-1979(昭和54)
(提供: 独立行政法人理化学研究所)

現在の日本数学会と日本物理学会は，戦前は一緒で，「日本数学物理学会」となっていました。それが戦後1946年1月にそれぞれ独立して，日本数学会と日本物理学会となって現在に至っています。その起源をさかのぼると，1877年(明治10年)9月に，湯島の昌平館に同好の士が集まり，東京数学会社が 設立されたときに至ります。「会社」というのは Society のことです。この 東京数学会社は，現在までつながっていて，雑誌も名称を変えながらも現在までつながっているものとしては，**日本で最古の学会**です。（中略） 1948年には Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ)が創刊されました。朝永振一郎(Shin-ichiro TOMONAGA)のノーベル物理学賞の対象となった「くりこみ理論」の論文は，PTP Vol.**1,2**に掲載されています。また，JPSJ Vol.**12**(1957)p.570-586には，久保亮五(Ryogo KUBO)による，有名な「線形応答理論」の論文が掲載されています。
[全文はホームページで]

学協会・日本学術会議と連携、関連した取り組み等

取り組みの例③

「科学技術理解増進」

○「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）」 http://rika.jst.go.jp/spp/index.htm

学校、教育委員会等と、大学・科学館等との連携により、児童生徒の科学技術、理科・数学（算数）に対する興味・関心と知的探究心等を育成する。事業の周知のため、研究者の集まる各学会のシンポジウム等の機会を利用し積極的にブース出展を実施。

○「国際科学技術コンテスト支援事業」 http://www.jst.go.jp/rikai/contest/index.html

国際科学技術コンテストへの児童生徒の参加等を支援し、青少年の学習意欲に応じたより発展的な学習機会の充実および青少年の科学技術に対する知的好奇心、探究心に応じた科学研究等の推進を図ることにより、全国各地域において科学技術をより身近に感じ、体験し、学習する機会を充実させるとともに、優れた成果を収めた児童生徒が世界の同世代の生徒と競い合い、交流することにより、より一層科学技術に対する志向と関心を深めることを目指す。事業の運営にあたっては、関連学会等と緊密な連携が重要。

○「サイエンスカフェの開催（日本科学未来館）」 http://www.jst.go.jp/pr/announce/20060322/index.html
http://www.scj.go.jp/cafe/web-content/index.html

サイエンスカフェは1998年にイギリスで生まれたもので、科学技術の分野で従来から行われている講演会、シンポジウムとは異なり、科学の専門家と一般の人々が、喫茶店など身近な場所でコーヒーを飲みながら、科学について気軽に語り合う場をつくろうという試み。

日本学術会議とＪＳＴは、平成１８年度にNPO法人、財団などの協力を得て、科学技術週間（4月17日～23日）中に北海道から沖縄まで、全国21ヵ所で「サイエンスカフェ」を開催。

札幌（SOSO Cafe）